



人権イメージキャラクター
人KENまもる君

人権週間



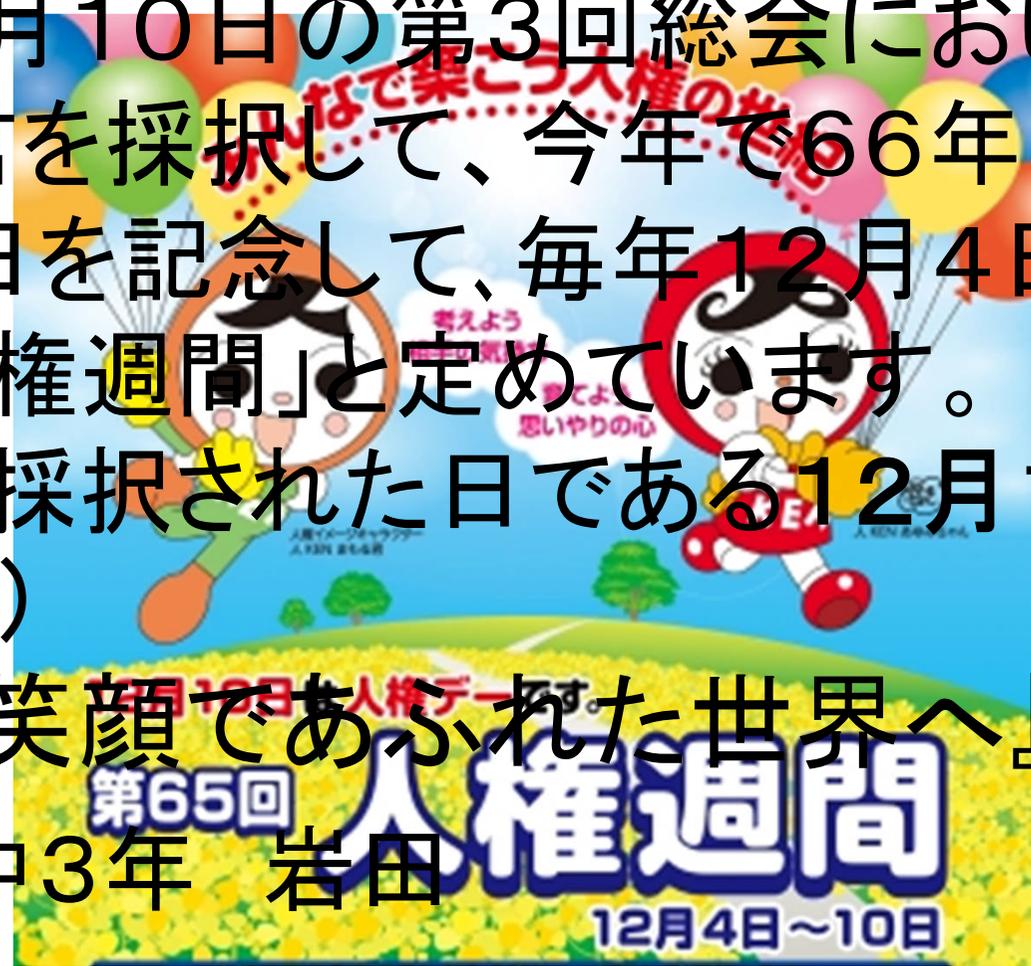
人権イメージキャラクター
人KENあゆみちゃん



国際連合が、12月10日の第3回総会において「世界人権宣言」を採択して、今年で66年目を迎えます。この日を記念して、毎年12月4日～10日までを「人権週間」と定めています。
(世界人権宣言が採択された日である12月10日は「人権デー」)

人権作文最優秀 『笑顔であふれた世界へ』

小田南中3年 岩田



今年の夏休み、私はカンボジアに行った。母の友人が数年前からカンボジアに住んでいて、その友人が日本に戻ってきた時にカンボジアの様子を聞かせてくれ、興味を持ったので今回行くことを決めた。実際に現地に行ってみて感じたことがある。それは貧困問題がどれほど重大なものなのかということだ。私は今回現地のたくさんさんの人と関わることが出来た。今までテレビで貧困問題について取り上げられたものを見たりしてたが、自分の目で見たり直接聞いたりする事で、世界中で起きている貧困問題というものを身を持って実感することが出来た。

カンボジアの人たちは、とても優しく、外国から来た初対面の私を温かく迎えてくれた。みんな笑顔が輝いていて、とても明るい人だった。

しかし、その笑顔からは想像できないような辛い話を聞かせてくれた。「毎日どれだけ頑張っても1ドルすら稼げない。1日1日を生きていくために必死なんだ。」「外国へ行つてたくさんお金を稼いで家族を幸せにしてあげたいけど、どうすれば外国にいけるのかわからない」「毎日の食べるものがなくて、近所の人が食べているところを眺めて、泣きながらおなかすいた。おいしそうだな。どっつぶやいて過ぐす日もある」ということ。他にも色々な話を聞かせてくれた。私はショックで胸が痛くなった。その中でも私が一番心に残っているのは自分と同じ14歳の女の子だ。楽しく会話している中でふと私が学校のことについて聞いてみた。すると「学校には行っていない」と答えた。

「私が学校に行けば、家族に大変な思いをさせてしまう。でも家を手伝えれば、お母さんもお父さんも楽になるでしょう？」そう言った女の子は笑っていたが、どこか悲しそうな顔をしていた。自分と同じ歳の女の子が家族のために自分のことを後回しにしてどれほどのことを我慢しているのか。

日本では、学校に行って、教育を受ける権利が当たり前のようにあるのに、カンボジアにはない。教育を受けなければ、文字を読めず、将来働くこともできず、又その子どもも学校に行けなくなると言う負の連鎖が起こってしまった。どうすればその負の連鎖を止めるきっかけをつくれるのか。他の国が物質面で援助しようと思っても限界がある。その時は良いかも知れないが、またすぐに悪い状況に戻ってしまうだろう。

私は、自分が何不自由なく生活できるならそれでいいとは思わない。国が違つたとしてもみんな同じ人間で持つ権利は平等であるべきだと私は思う。だから、世界中の子どもたちが学校に行ったり、毎日食べることが出来たり、そうした世界がいつかできるようにそれぞれが自分に出来る立場で行動することが大事だと思ふ。今回は現地の人の声を聞くことだけしか出来ず、実際に自分自身は何も出来なかつたので、次回行ったときには自分が持っている最大限の力を活かして、現地の人の役に立ちたい。それまでも今、自分に出来ることを精一杯頑張ろうと思ふ。現地の人の声を沢山の人の届ける。これが今の私に出来ることだろう。小さな積み重ねがいつか世界を変える大きな力になることを信じて。